

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鹿島市立東部中学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 職員は生徒一人一人のことを考えて教育活動に取り組んでいる。諸問題に対して学年・学校でいち早く共通理解を図り、組織的に取り組んでいる結果、明るく、落ち着いた学校づくりにつながっている。しかし、自己肯定感や自己有用感が低いところも散見される。行事や生徒会活動を通して、自己肯定感や自己有用感を育む手立てをとらなければならない。 県学力調査の結果からみると、県平均を下回る教科があり、改善しなければならない。生徒の学習に取り組む姿勢をよりよくするために、学力向上コーディネーターや研究主任が中心となって工夫改善していく。 コロナ禍の中で地域や家庭と一体となった教育実践は難しいものがあった。ICT機器を効果的に活用するなど工夫して、連携を図らなければならない。
------------------	---

2 学校教育目標	郷土を愛し・健やかな心身を育み・ともに伸びる ～ STEP UP!! あいさつ(A)・掃除(S)・勉強(B) プラスワン ～
----------	---

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①心の教育の推進（道徳教育の充実、人権・同和教育の充実、特別支援教育の充実、部活動や学校行事を通じた人づくり） ②学力の定着と向上（学習規律の定着、わかる授業作り、学習環境の整備、主体的に学ぶ生徒の育成） ③協働してより深く学ぶ生徒の育成（対話によって学び合う生徒の育成、個に応じたキャリア教育の充実、行事や体験活動による実践力の育成） ④人間関係形成力の育成（挨拶や礼儀の指導、無言掃除の徹底、あたたかい学級集団づくり） ⑤地域とともにある学校づくり（開かれた学校づくりの推進、地域やPTAと連携）
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・マイプランを掲示し、常にそれを意識した授業が展開できるように工夫する。	B	・マイプランの指標を達成できた職員は40%であったが、全職員が「わかる」「楽しい」授業の創出に取り組んでいる。次年度は全職員のマイプランを共有したい。
	○指導方法の改善・充実	○授業が「分かる」と答える生徒の割合75%以上	・主体的で対話的な深い学びをおこなうためアクティブラーニング等の表現活動や活用を取り入れた授業に取り組む。 ・授業研究会を計画的に実施する。	A	・県の学習状況調査の結果、2年生においては全教科昨年を上回った。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・ふれあい道徳を実施する。 ・生徒会主催での人権集会等を開催し人権意識を育む。	A	・道徳の授業を通して「人としての生き方を学んでいる」と答えた生徒の割合は84%であった。担任だけが授業を行うのではなく、全職員で取り組んでいる。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○職員がいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、80%以上	・毎月、生活アンケートを実施し、生徒指導主事を中心に全職員で生活面での問題の早期発見・早期対応につなげる。	A	・いじめをしないよう心がけている生徒100%、いじめ問題に積極的に対応していると答えた保護者85%。今年度いじめとして報告した事案は3件。昼休みも教室に常駐するなど、予防的な生徒指導を行った結果であると思う。
	◎夢や目標を持ち、その実現のための進路指導の充実	○自分の将来のために努力を惜しまない生徒の割合80%以上	・キャリアパスポートを利用し、学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりさせ、自分の進路について意欲的に考えさせる。 ・構成的グループエンカウンター等を利用して自己肯定感や有用感を高める。 ・地域の教育資源や人材をいかした体験活動や講演会を実施する。	A	・自分の将来について努力している生徒は77.3%で目標には届かなかったが、将来について考えている生徒は80.3%であった。進路学習については、進路学習や、職業体験、職業人の話を聞くなどしてより良い職業観を養うよう指導した結果と考える。
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○遅刻率(遅刻延日数÷出席延日数×100)1.5%未満 ○「早寝早起き朝ごはん」ができていない生徒の割合80%以上 ●児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・フォーサイトを利用し、自己管理できる力を養う。 ・学校HPや各種たよりを発行し、保護者のに生徒の様子を積極的に知らせる。 ・生徒を安全に登下校させるため、定期的にルールやマナーについて指導を行う。	A	・遅刻率は2.0%。「早寝早起き」ができていない生徒は生徒は74.2%、朝ご飯を毎日食べている生徒が93.9%。生徒の交通事故は0件。今後も継続して保護者への啓発を行っていく必要がある。
	●「安全に関する資質・能力の育成」				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45h、年間360h)を遵守する。	・毎週水曜日を定時退勤日、部活動休養日とし、時間外に行事等を入れない。 ・業務内容を精選する。また、業務を分担し、一人に過重負担がないようにする。	B	・平均時間外在校時間は月45時間、年間360時間を全職員を平均すると下回るが、個々の職員で見ると基準を超えている職員もいる。業務の分担等更なる効率化を図る必要がある。
	○働き方改革の推進	○業務を精選しながら業務の効率化を図っていると答える職員が90%以上	・業務改善の提案を積極的に、職員が行える環境を整える。	A	・業務の効率化を図っている職員は81.0%。目標は達成できなかったが、優先順位を考え仕事をし、効率化を図ろうと努力している。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目					
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果
○あいさつや掃除の充実	○「あいさつ」や「掃除」の充実	○生徒が「元気よくあいさつができています」と答える保護者の割合が80%以上 ○「掃除がきちんとできています」と答える生徒の割合が90%以上	・生徒会やPTAと連携してあいさつ運動を行う。 ・掃除のときも職員が臨場指導し、その都度生徒を評価する。	A	・掃除ができていないと答えた生徒は95.5%、元気よく挨拶できると答えた保護者は85%。
○地域とともにある学校づくり	○地域とともにある学校づくり	○「地域に誇りを持っている」と答える生徒の割合が80%以上	・ボランティア活動に積極的に参加させる。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を設定したり、内容を工夫する。 ・サービスマーケティングを行う。 ・HPを使って積極的に情報発信を行う。	A	・吹奏楽部や生徒会のボランティア活動で積極的に地域に出て行き、地域と一体となった活動ができた。地域に誇りを持ちこの地に生活できて幸せだと思える生徒92.4%。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果をみると、生徒は充実した学校生活を送っている。職員が生徒一人一人のことを考えて教育活動に取り組んでいることがよくわかる。諸問題に対して学年・学校でいち早く共通理解を図り、組織的に取り組んでいる結果、明るく、落ち着いた学校づくりにつながっている。しかし、自己肯定感や自己有用感が低い。行事や生徒会活動を通して、自己肯定感や自己有用感を育む手立てをとらなければならない。 県学力調査の結果からみると、2年生においては全ての教科で昨年より伸びている。特に数学においては県平均を大きく上回った。課題チェックを確実にやってきた結果と思われる。ただ、下回る教科もあり、改善すべき点もある。生徒の学習に取り組む姿勢をよりよくするために、学力向上コーディネーターや研究主任が中心となって工夫改善していく。 コロナ禍の中で地域や家庭と一体となった教育実践は難しいものがあったが、PTAと一体となってボランティア活動を行ったり、生徒が地域に出向いて活動を行ったりできた。更に、ICT機器を効果的に活用するなど工夫して、連携を図らなければならない。
--------------------	---